(2) ASD の特性理解に基づく学校コンサルテーションの在り方についての検討
ー TEACCH 学校コンサルテーションを基にー

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学専攻修士課程　○岸本　和美
川崎医療福祉大学医療福祉学科　諏訪　利明

【要　旨】

文科省は「発達障害に関する専門的・実践的知識を有する教職員の育成」を重視している．TEACCH　Autism Program では，1972年から指導者へのトレーニングプログラムが実践されてきているが，そこでは ASD の障害特性に基づいた指導を教師が自立して実践できるようになることを重視しており, 文科省の方針とも共通する．本研究では，TEACCH 学校コンサルテーションモデルに従って実施したコンサルテーションが，教師の指導にどう影響し，それによって生徒の行動がどのように変化したかを明らかにすることにより，ASD 特性に基づく学校コンサルテーションの在り方を検討することを目的とする．対象者は，中学校特別支援学級担任教師2名で，ASD の診断がある中1男児2名をそれぞれの協力児とした．コンサルテ―ションは，それぞれの教室における担任の指導実践を通して実施した．データの収集と分析方法は，コンサルテーション実施前，実施中，実施後に，対象者との話し合いの内容を録音し，逐語録を作成した．このデータから，第Ⅰ～Ⅲ段階でのコンサルテーションの内容と対象者の発言・取り組みの変化を抽出し，整理し，分析した．

結果としては，対象者は，協力児の ASD 特性から支援を工夫し実践し，協力児は主体的な行動が可能となった．さらに対象者は，他の生徒や介入場面以外でもその方法を応用し般化させることができた．考察として, ASD の指導におけるコンサルテーションの在り方としては，① ASD の特性理解を基にアセスメントを実施し，指導対象児の ASD 特性を適切に捉えられるようにすること② TEACCH の構造化した指導を指導対象児の実態に応じて使えるように，対象者の理解に応じて情報提供や助言を行うこと③実践についての評価を ASD 特性の解説を加えてフィードバックすることを繰り返すことがあげられ，継続的なプロセスが重要であることが明らかになった．